

2007「植村直己冒険賞」受賞者が決まる



エベレストに
北稜(中国側)から
登頂成功

野口 健さん

2007年5月15日、エベレストに中国側から登頂に成功して喜ぶ野口さん(写真中央)ら登頂メンバー

2月12日、植村直己さんの母校である明治大学紫紺館(東京都千代田区)で、12回目となる植村直己冒険賞受賞者の記者発表を行いました。2007年に日本人が挑んだ214件の冒険行の中で受賞者に選ばれたのは、エベレスト(標高8848m)に北稜(中国側)から登頂に成功した野口 健さん(34歳、東京都在住)です。記者発表で、野口さんは「山登りのきっかけは植村さんの本でした。私の人生を変えた植村さんの賞が受賞でき大変光栄に思います」と喜びの言葉を述べました。

なお、授賞式を6月7日に日高文化体育館で行いますので、皆さん、楽しみにお待ちください。

《問合せ》植村直己冒険館 ☎44-1515

登山のきっかけは 植村直己さんの本から

1973年にアメリカ・ボストンで生まれた野口さんは、高校時代に偶然に書店で見つけた植村直己さんの著書『青春を山に賭けて』に感銘を受け、登山を始めました。

7大陸最高峰 世界最年少登頂記録 を25歳で樹立

1989年8月、16歳でヨーロッパ大陸最高峰フランス・モンブランの登頂に成功し、その後、7大陸最高峰登頂を目指す決意を固めました。

4大陸最高峰登頂後、1993年6月、19歳で北米大陸最高峰アメリカ・マッキンリーの登頂に成功(5大陸最高峰世界最年少登頂記録)し、翌年、1994年12月、21歳で南極大陸最高峰ビンソン・マシフの登頂に成功(6大陸最高峰世界最年少登頂記録)しました。

1997年5月、23歳でアジア大陸最高峰中国・エベレスト(チョモランマ)の登頂に挑戦するも天候悪化により

あえなく撤退となりました。そして、1999年5月、

25歳で再挑戦し、アジア大陸最高峰ネパール・エベレスト(サガルマータ)の登頂に成功(7大陸最高峰世界最年少登頂記録)しました。

環境問題に取り組み中 新たな決意が

2000年からはエベレストや富士山での清掃活動を開始。以後、環境問題を担っていく人材の必要性を感じ、全国の小中学校を主な対象とした「野口 健・環境学校」を開校するなど、新たに地球温暖化に対する取組みに力を入れてきました。そんな中、新たな決意が…。

最後のエベレスト挑戦

野口さんは、10年前に中国側からエベレストに初挑戦し、最終キャンプにすら到達できない惨敗。2年後に反対側のネパール側から登頂に成功するものの自分の中では満足できずにいました。

再挑戦のリスクを思えば「ネパール側から登頂したのだからもういいんじゃないか」



エベレストに最終アタックする野口さん

と自分に言い聞かせるもの、やはり自身をごまかすことはできませんでした。

それならば初挑戦から10年目の節目である2007年春に再挑戦しようと決意し、あえて自分にプレッシャーをかけるため、「最後のエベレスト挑戦」と公言しました。

「ごみを回収しながら 中国・ネパール 両側からの制覇

今回の登頂は「エベレスト・富士山同時清掃登山」と銘打ったイベントを兼ねており、13日、清掃活動を開始し、15日には、富士山周辺でも、約160人のボランティアが約3トンのごみを集め、エベレストでも約170キロのごみを回収しました。

23日、安全祈願を行い、26日、ノースコル（標高7050メートル）にて高度順化。途中のアドバンスベースキャンプ（標高6400メートル）に戻り、5月9日、再度出発し、15日午前8時、ついに世界最高峰エベレスト（標高8848メートル）への中国側からの登頂に成功しました。

今回の登頂で中国・ネパール両側からの制覇は日本人で8人目となりました。

エベレスト からの卒業 新たなチャレンジ

野口さんは「ベースキャンプに戻ってきた時は、心底ホッとした。また、同時に10年間通い続けてきた工

野口 健さんプロフィール

1973年、アメリカ・ボストン生まれ。アルピニスト（登山家）、1999年に25歳でエベレストの登頂に成功し、7大陸最高峰世界最年少登頂記録を樹立。2000年からはエベレストや富士山のごみ問題を解決するため、清掃登山に尽力する。



主な冒険等経歴

- 1989年 8月 フランス・モンブラン(4807m・旧ヨーロッパ) 登頂
- 12月 タンザニア・キリマンジャロ(5895m・アフリカ) 登頂
- 1992年 9月 オーストラリア・コジウスコ(2240m) 登頂
- 12月 アルゼンチン・アコンカグア(6965m・南アメリカ) 登頂
- 1993年 6月 アメリカ・マッキンリー(6149m・北アメリカ) 登頂
5大陸最高峰世界最年少登頂記録達成(19歳)・日本人マッキンリー最年少登頂記録
- 1994年 12月 南極・ピンソン・マシフ(4897m) 登頂
6大陸最高峰世界最年少登頂記録達成(21歳)
- 1996年 1月 ロシア・エルブルース(5642m・新ヨーロッパ) 登頂
- 1999年 5月 ネパール・エベレスト(サガルマータ・8848m・アジア) 登頂
7大陸最高峰世界最年少登頂記録達成(25歳)
- 2000年~03年(4年連続) エベレスト清掃登山
- 2007年 5月 エベレストに北稜(中国側)から登頂

著書

『落ちこぼれてエベレスト』『100万回のコンチクショー』『あきらめないこと、それが冒険だ』など

野口 健ホームページアドレス

<http://www.noguchi-ken.com/>

ベレストからの卒業の瞬間でもありました。そして、何よりもうれしかったのが、以前と比較してエベレストがきれいになっていったこと。ごみはゼロではありませんでしたが、必死にごみを探さなければ見つからないほど少なくなっていました」と話しました。

次の目標を「地球温暖化の影響で溶けてゆく氷河対策で

す。ヒマラヤから世界に温暖化の脅威を訴え、また氷河が急激に融解し決壊しそうな氷河湖対策に取り組みたい。清掃活動よりさらに困難になりますが、最後まであきらめません」と話し、経験の中から次代に伝えようとする野口さんの行動は、植村直己さんに通じるものがありました。



2000年~03年の4年間にエベレストで回収された約500本の酸素ボンベ